

## マツノマダラカミキリの産卵部位

宮崎県林業試験場 家 入 忠

### 1. はじめに

最近マツノザイセンチュウの発見により、マツクイムシに関する試験研究は新しい段階にはいった。マツノザイセンチュウはマツノマダラカミキリによって媒介伝播されるといわれている。従って、その一環としてマツノマダラカミキリの産卵部位について調査したところ若干の調査結果が得られたので報告する。

### 2. 調査場所および調査時期

#### (イ) 調査地

宮崎県児湯郡川南町大字川南字昭和、町有林、人工林、林令17年生

#### (ロ) 調査時期

昭和47年10月2日—10月4日

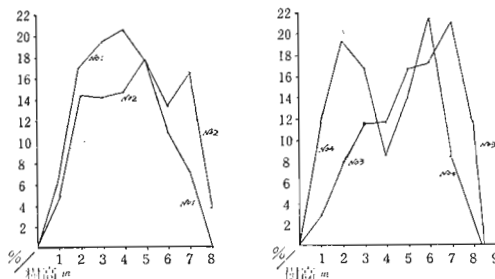
### 3. 調査方法

(イ) 打ち抜きによる樹脂量判定で一の時点から1か月～2か経過後の枯損木、および本年6月から9月の間の枯損木を伐倒、樹高、枝下高を測定し地ぎわより50cmに玉切り中央円周、樹皮の厚さを測定、東西南北に分けマツノマダラカミキリの産卵痕、および寄生せい息幼虫数を調査した。

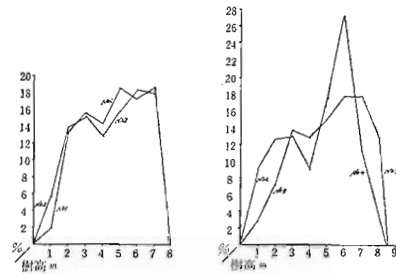
(ロ) 樹高8.0m、および8.5mの枯損木について結果をとりまとめた。

### 4. 結果と考察

調査結果は次のとおりである。またこれを1m部位ごとに図示すると第1図および第2図のとおりである。



第1図 マツノマダラカミキリ産卵部位 %/m<sup>2</sup>



第2図 マツノマダラカミキリ幼虫せい息部位 %/m<sup>2</sup>

#### 1) 樹高8.0mの産卵部位について、

調査木No. 1の地上高2.0mの部位で、155/m<sup>2</sup>、17.1%、4.0mで188/m<sup>2</sup>、20.7%の最高位をしめし、6.0mで100/m<sup>2</sup>、11.0%となった。また調査木No. 2は地上高2.0mの部位で123/m<sup>2</sup>、14.5%、4.0m部位でもほぼ同じ数値であり、5.0mでは151/m<sup>2</sup>、17.8%の最高位をしめし、6.0mで13.4%、7.0mで16.3%、8.0mで33/m<sup>2</sup>、3.9%になった。

#### 2) 樹高8.0mの幼虫せい息部位について、

調査木No. 1およびNo. 2ともに地上高2.0mの部位で、13.4%と13.8%の数値をしめし、3.0m、4.0m、5.0mでもほぼ同じ傾向であった。6.0mでNo. 1は17.3%、No. 2では18.2%でその差は0.9%であり7.0mでもほぼ同じ差であった。

#### 3) 樹高8.5mの産卵部位について、

調査木No. 3の地上高2.0m部位で58/m<sup>2</sup>、7.5%、4.0mで11/m<sup>2</sup>、11.8%、6.0mで132/m<sup>2</sup>、17.1%、7.0mで161/m<sup>2</sup>、20.9%の最高位をしめし、8.0mで11.7%の数値であった。8.0mから上部の産卵痕は認められなかった。調査木No. 4の地上高2.0m部位で96/m<sup>2</sup>、19.2%、4.0mで43/m<sup>2</sup>、8.6%と少なく、6.0mで106/m<sup>2</sup>、21.2%で最高位をしめし、7.0mで8.3%の数値で、7.0mから上部の産卵痕は認められなかった。

#### 4) 樹高8.5mの幼虫せい息部位について、

調査木No. 3の地上高2.0m部位で28頭/m<sup>2</sup>、7.1%、4.0mで51頭/m<sup>2</sup>、12.9%、6.0mで70頭/m<sup>2</sup>、17.8%の最高位をしめし、8.0mで50頭/m<sup>2</sup>、12.7%、せい息数値で、それから上部の幼虫せい息は認

められなかった。調査木 No. 4 の地上高 2.0m の部位で 46 頭/m<sup>2</sup>, 12.5%, 4.0m で 33 頭/m<sup>2</sup>, 9.0% と少なく, 6.0m で 100 頭/m<sup>2</sup>, 27.3% の最高位をしめし, 7.0m で 42 頭/m<sup>2</sup>, 11.4% せい息していて, それから上部の幼虫せい息は認められなかった。

- 5) 調査結果から産卵痕については, どの調査木も地上よりほぼ 20cm 部位までと樹幹稍頭部の円周が 7 cm 以下の小径木では認められなかった。従って地ぎわ部と樹幹上部に少なく中央部に多い。
- 6) 枝条の産卵痕は下部に認められ, 大きさも円周 7 cm 以下の部分では認められなかった。
- 7) 方位別による産卵痕は大差はなかった。
- 8) 10月2日～4日調査時点で, 幼虫は 86.8%～92.4% が材内に穿入せい息し, 枝条基部にその量も多い。
- 9) 本調査時点でマツノマダラカミキリの幼虫は 86.8% 以上が材内に穿入せい息している。マツノマダラ

カミキリがマツノザイセンチュウの媒介者であることから, マツノマダラカミキリの幼虫駆除時期として, これら幼虫が樹皮下のせい息期間での駆除が考えられる。

- 10) 幼虫せい息状況から, 伐根および稍頭部の小径木, 枝条上部の小径木には認められず, 中間部の枝条基部にせい息密度が高いことから, これら部位における徹底した駆除が必要であろう。

#### 参 考 文 献

- 日塔, 小田, 加藤, 77回日本林学講演集  
p 376—379 (1966)
- 日塔, 小田, 加藤, 78回日本林学講演集  
p 193—195 (1967)
- 岩崎, 森本, 24回日本林学会九州支部研究論文集  
p 187—188 (1970)